

送 菅 先 生

菅先生を送る

相逢如夢又如雲  
飛去飛來悲且欣  
一諾半錢慚季子  
晝情夜思不忘君

相逢う夢のごとく又雲のごとし  
飛び去り飛び来つて悲しみ且つ欣ぶ  
一諾半錢季子に慚ずれども  
昼情夜思君を忘れず

(口語訳) 人の出会いは夢のようにはかなく、又雲があてどなく飛び交うように、会うを喜び、又別れを悲しむ。私の一諾は半錢の価値しかなく、季子(季布)の一諾黄金百斤の重みに対してはすかしいが、昼も夜も君を思つて忘れない。「菅先生とは明治四年(一八七二)東京で初めて会い、明治八年再び鹿児島で会つたのだが、その年、庄内まで同道しようと約束したのにそれが果たせず、別れることになつたのである。その折の送別詩」○季子||史記にある故事。

示 子 弟(二)

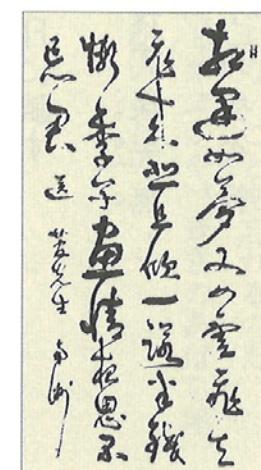
子弟に示す(二)

世 俗 相 反 處  
英 雄 却 好 親  
逢 難 無 肯 退  
見 利 勿 全 循  
齊 過 沽 之 己  
同 功 賣 是 人  
平 生 偏 勉 力  
終 始 可 行 身

世俗相反く處  
英雄却つて好親す  
難に逢うては肯えて退く無く  
利を見ては全くは循う勿れ  
過ちを斎しうしては之を己に沽い  
功を同じうしては是を人に売れ  
平生偏に勉力し  
終始身に行うべし

(口語訳) 世間の人が背を向けていやがるところに、英雄といわれる非凡の人は、反対に好み親しみ近づくものである。難儀なことに出くわしても決して引きさがることなく、利益を見てもやたらに追い求めてはいけない。人と一緒にあやまちをし出かしたら一人で責任を負い、人と一緒に功を立てたら功を人に譲れ。然しこのようなことはたやすくできるものではないから、常に一所懸命努力し、絶えずわが身に実行していかねばならぬ。

○肯||敢と同じ。決して。○勿全循||「循」は利にしたがう。全然利を追い求めてはいけないというのではなく、全くのめりこんではいけないという意味。ある程度は求めてもよいのである。全勿循とは異なる。○齊過||人と共に過ちをおかす。○沽||買と同じ。



(青)(庄)(全)